

田健治郎日記 1

明治二十九年〜四十二年

田英夫氏と云へば、公社 による除名。一旦は復党す 会民主連合の代表を務め るものの、伊藤が政友会総 裁を辞任すると、通信省に 系の政治家として有名であ るが、同じく政治家であつ た祖父・健治郎「安政二 (一八五五)〜昭和五 (一九三〇)」のことを知る人 退官するや貴 族院議員に勅 者を除けば少ないだろう。 選四四十一

◆実務家の日記◆

鉄道史の史料としても...

金子 宗 徳

信省が鉄道 行政を所管

則ち一望瀟然、日、隅、薩 の三州の大観忽ち眼底に入 り「云々と多くの筆を削い てゐる」明治四十二(一九 〇七)年十一月十九日。 〇七)年十一月十九日。 因みに、螺旋状鉄道とはル ープ線、逆行点とはスイッ チ・バックのこと。その他 郷里の柏原から大阪に戻る のにわざわざ遠回りして京 都線(現在の山陰本線)に 乗つた感懐が記されるな ど、鉄道史の史料として読 むこともできるだろう。か ねこ・むねのり氏「姫路獨 協大学法学部講師・近代日 本政治思想専攻」



田健治郎日記 1

A5判・411頁・7140円 芙蓉書房出版 978-4-8295-0437-6

素封家の次男として丹波 九〇七)年九 国水上郡(現在の兵庫県丹 波市)に生まれ、地方官と なる。貴族院 として司法・警察畑を転々と して後に通信省入りした健 治郎は、次官にまで登りつ めた後、衆議院議員に転身。 伊藤博文の卒める立憲政友 会に所属したが、党内対立 閣では、通信大臣として入

閣した。さらには、大正八 通信次官を辞めて貴族院議 員に勅選されてから死の直 前に至る約二十五年間、一 日も欠かさず書き続けた日 記は、国立国会図書館憲政 資料室に保管され、その存 在は研究者に広く知られて いた。しかしながら、全て 三)年十一月まで、九州 炭坑船舶株式会社(の社長 を務めてゐた)として、 十分活用されてこな かつた感がある。台湾 総督時代の日記が台北の中 央研究院台湾史研究所から 刊行されてゐるやうだが、 (現在の JR関西本線などを経営し てゐた)関西鉄道の社長を 務めてゐたこともあつて 記の全文が、書き下し文 の形で刊行されるに至つた ことを素直に喜びたい。な を有してゐたらしく、鉄道 上の通り、健治郎は政官界 に関することをも目立つ。例 昭和七(一九三二)年に一 善には明治三十九年から 明治四十三年までの五年間 通したばかりの吉松 間(現在のJR肥後線)に 貴族院議員に就任したばか りでもあり、政治の裏面に 螺旋状鉄道、二個の逆行点 を設け、「隧道を出て

成立した第二次山本権兵衛 内閣では農商務大臣として 震災復興に努力し、大正十 五(一九二六)年五月から 五(一九二六)年五月から 以上は秘密顧問官を勤めた。 以上の通り、健治郎は政官界 に関することをも目立つ。例 昭和七(一九三二)年に一 善には明治三十九年から 明治四十三年までの五年間 通したばかりの吉松 間(現在のJR肥後線)に 貴族院議員に就任したばか りでもあり、政治の裏面に 螺旋状鉄道、二個の逆行点 を設け、「隧道を出て

から昭和五年まへつまり、 関する記述は殆ど見当たら ない。 目についたのは、実務に 精励する姿であつた。栃木 県の鬼怒川上流における電 源開発や長崎県の崎戸島に おける炭坑開発の責任者一 明治四十(一九〇七)年 十一月から大正二(一九一 三)年十一月まで、九州 炭坑船舶株式会社(の社長 を務めてゐた)として、 十分活用されてこな かつた感がある。台湾 総督時代の日記が台北の中 央研究院台湾史研究所から 刊行されてゐるやうだが、 (現在の JR関西本線などを経営し てゐた)関西鉄道の社長を 務めてゐたこともあつて 記の全文が、書き下し文 の形で刊行されるに至つた ことを素直に喜びたい。な を有してゐたらしく、鉄道 上の通り、健治郎は政官界 に関することをも目立つ。例 昭和七(一九三二)年に一 善には明治三十九年から 明治四十三年までの五年間 通したばかりの吉松 間(現在のJR肥後線)に 貴族院議員に就任したばか りでもあり、政治の裏面に 螺旋状鉄道、二個の逆行点 を設け、「隧道を出て

★しゅうゆうくわいぶは一 九二八(昭和三)年設立 の公益事業団体。旧貴族 院の会派「研究会」所属 議員により設立される。 戦後、純然な公益法人と して再出発。日本近代史 関係史料の調査・研究な どに携わる。 ★ひろせ・よしひろ氏は 駿河台大学教授。早稲田 大学大学院修士課程修 了。編著に「昭和史の一 級史料を読む」など。一 九四四(昭和19)年生。